

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		<p>地域に支えられグループホームが開設され、利用者の尊厳を守る生活と地域の方の交流を大切にすることを理念に盛り込んでいる。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念に基づきカンファレンス、会議で話し合いケアに取り組んでいる。職員採用、異動時は必ず理念を伝えて理解、共有して頂いている。</p>	<p>ミーティング等で更に理念を確認しあう機会を多く工夫していきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族には運営推進委員会、家族会、広報誌、地域の方には運営推進会議、広報誌を配布し分かりやすく伝えている。開設前より、公民館での説明会、お茶会等で理念を伝える機会を設ける。</p>	<p>運営推進会議、家族会で年度初めに施設理念を配り会議の中で伝えている。地域の方は、広報以外にも伝えていく方法を工夫していく。インターネットホームページにも載せてあることを伝え閲覧できるように伝えている。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日常的に散歩や買い物等に出かけ、近隣の人達と挨拶、お話ししたり子供たちと触れたりしている。また、グループホームに近隣の方をお呼びしお茶を飲んで頂いたり触れ合いの場が多くある。</p>	<p>近隣の方とのお付き合いや交流を、散歩や買い物でお会いした時等気軽によってお茶を飲んで頂いたり等深めている。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の文化祭、運動会、もの作り、530運動、草刈り、公民館掃除等、利用者と共に積極的に参加している。地域の小学生も訪問に来られる。</p>	○

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者を対象に健康教室において、介護予防、認知症の理解や接し方、対応について勉強会を行っている。	○	地域の方と共に認知症について更に学ぶ機会を多くし、相談を受けられるようにしていく。
<b>3. 理念を实践するための制度の理解と活用</b>			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	定期的な学習会で事前から自己、外部評価の目的意義について、運営者、管理者、職員とで学び取り組んでいる。全職員で自己評価を行いサービスの質の向上に努めている。		カンファレンスで評価項目に基づいて課題をあげて改善に取り組み、利用者のケアに取り組んでいる。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催している。検討事項や課題について話し合い、経過を報告している。		話し合いの内容を検討し、経過、結果を皆さんに伝えていくことを継続していく。会議で自己評価の内容を説明し、外部評価の結果を公表する。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	視察の受け入れ等で交流を行っている。	○	定期的に市職員と利用者の交流の場を適用できるよう、更に検討していく。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学習会にて、職員への理解を深めている。職員採用異動時も説明して理解を深めている。いつでも対応相談できるよう体制を作っている。外部研修にも参加し知識習得に心がけている。		事業所の事務所にパンフレットがあり、いつでも閲覧、相談できるよう配慮している。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会により、全職員が勉強し、知識の習得、遵守に取り組んでいる。マニュアル化されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所契約において、時間をとり丁寧に説明している。利用料金等については詳しく説明している。事業所のケア方針や取り組み、退所について事業所で出来ることできないことをじっくり説明している。</p>	<p>入所時の重要事項、退所時の相談も契約、面接時に家族へ説明して頂き、わからないことは随時説明している。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>3ヶ月に1回定期的に介護相談員が来て、利用者とは話し、相談や意見を聞いて頂き運営の参考にしている。いつでも利用者の意見、要望を聞けるようにし、日々のケアに生かしている。</p>	<p>常に職員は利用者の要望を聞く体制を整え、生活に反映出来るよう、カンファレンスで話し合い、センター方式を活用し共有している。介護相談員の意見は会議録にまとめ職員間で共有している。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>2ヶ月に1回の家族会や、面会時、現在の状況を職員が説明したり、介護記録をみて頂いている。必要に応じては電話で連絡している。金銭管理は、金銭出納帳をつけ、面会時に本人、ご家族に確認、サインを頂いている。</p>	<p>○</p> <p>面会の時は、職員から健康生活の状況をお茶を飲みながら等雰囲気を作って伝えている。少ないご家族に生活状況を伝える方法を更に工夫していく。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族には、面会時や家族会の時、常に問いかけ、何でも行ってもらえるような雰囲気作りをしている。出された意見はすぐに話し合い、生活に反映させている。家族会で家族で話し合う場を作っている。</p>	<p>広報へ苦情相談の窓口の記載、玄関に苦情箱を設け記入して頂くよう設置し、説明している。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>グループホーム会議(月1回)、個別の相談を随時行い多様な意見を聞くようにしている。意見交換が出来る環境を整え会議も全員参加で行っている。改善できることは実行している。</p>	<p>会議や面接での意見や提案を、チームケアに生かすよう毎日のカンファレンスでその日の勤務職員で確認したり意見を言って工夫している。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の生活に合わせてシフトを組んでいる。緊急時やその時の状況により、柔軟な職員配置を考慮している。</p>	<p>緊急時や突発的な時も、その日出勤している職員で考慮したり、管理者に相談して対応している。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にしているが、やむおえない場合は、利用者野もなじめれ新職員も慣れるよう職員がサポート支援している。利用者にも紹介し、じっくりと関係が繋げられるようにしている。		利用者にダメージを与えないよう、最小限に異動を検討している。(例、産休育休のための異動等)家族会等でも異動の件を伝えている。
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を職員個別に作成し基づいて、内外部研修に参加している。勉強会や月1回の学習会を行い、プログラムを作成全員が参加している。外部研修は職員の経験により参加し報告会を行っている。個別で教育シートで目標を立てアドバイスしている。		個別の研修計画を立て、経験年数に合わせた外部研修の参加や資格取得等実施している。
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会、県宅老所・グループホーム連絡会に加入し研修会や交流会に参加し、質の向上に努める。	○	連絡会の研修、学習会には積極的に参加し、横の連携を密にし、職員の質の向上に向けていく。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	お互いに気を配り、気分転換できる休憩室、休憩時間の確保をしている。すぐに相談できる体制を作りチームで支えあう環境を作っている。		互助会による年1回の職員旅行や食事会の計画に賛同している。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も現場に来て、年1~2回の面接があり話せる環境を作っている。職員教育シートにて目標を設定し6、12ヶ月の機能評価を行い質の向上に向けている。資格取得に向け、学習会や積極的に研修参加を促し、モチベーション向上に取り組んでいる。		各種資格取得に向け、研修会や学習会に積極的に参加し、向上心を持てるよう実施している。職員に責任と役割を持って頂きやりがいのある職場にしている。健康診断も行い体調の管理、相談場所もある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面接において、生活の状況を把握するようにしている。サービス利用の相談時、必ず本人と会い、心身の状況、本人の思いに向き合い関係作りをしている。</p>	<p>入所前に、ご家族にセンター方式を記入して頂き、本人や家族の思いや意見希望を職員で共有している。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>自宅や施設への訪問をして、ご家族が求めていることを理解し、事業所としてはどのような対応ができていないか事前に相談話し合いができていない。ご家族の苦勞、入所に至る経緯をゆっくりと聞いて次の段階の相談につなげている。</p>	<p>入所前に、ご家族にセンター方式を記入して頂き、本人や家族の思いや意見希望を職員で共有している。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時は、本人ご家族の思い心身状況を確認し、提案や相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら、必要なサービスに繋げている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人やご家族に事業所を見学して頂いたり、家族会に参加して頂いたり生活が安定できるように移行している。やむおえず入所の場合は、しばらく本人のご家族や友人に来て頂き安心されるようにしている。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人の立場に立ち、気持ち思いを理解し共有しながら、人生の先輩として学ばせて頂きお互い支えあい生活している。</p>	<p>生活の中で、昔の習慣等を教えて頂き、教えて頂いた事を共に行ったりと場面を設定している。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の生活の様子、職員の思いを面会時に伝えていくことで、本人を支えていく協力関係に繋がっている		面会時気軽にお話ができるよう、いつでも職員は利用者の生活状況をお話しし、家族との関係を大切にしている。何かあった時は、電話で早めに伝えている。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出、外泊、行事参加を通し、ご家族と一緒に過ごすことをすすめ、より良い関係性を継続できるようにしている。		本人の希望を、家族の思いを繋げ、一緒に過ごすきっかけを提供したり、御家族の遠い方は、手紙を書いたりしている。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や以前の職場の同僚、住み慣れた顔なじみの方々に来所されたり、昔の馴染みだった場所への外出も行っている。一人ひとりの生活習慣を尊重し、継続的な交流ができるよう働きかけている。		家族、地域のボランティア、民生委員から、利用者の近所の方や、職場の同僚等面会に繋げて下さっている。利用者の行きたい場所への外出も職員が計画し行っている。
31	利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う仲間での散歩を楽しんだり、御茶の時間にはお互いの気持ちを話され、支えあい生活している。役割活動を通じて利用者同士が関係よく働きかけている。いつでもさりげなく見守り、傾聴できるよう心がけている。		
32	関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	開設後、退所者が1名であり、本人の面会や家族との連絡で関わりを行っている。	○	今後、退所者へのご家族の相談等継続的な支援を検討していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の生活の中で何が一番その方にとって良いのか本人に確認したりご家族からお話を聞き、職員で話し合っている。</p>	<p>毎日のカンファレンスの中で、センター方式C1-2シートを活用し、本人の思いや希望を探り、ケアに繋げている。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご本人やご家族にどんな生活をしてきたか聴き取っている。本人との会話やご家族、知人の面会時等もすすめている。(プライバシー、守秘義務に配慮する)</p>	<p>入所時家族に記入して頂いたセンター方式ABシートを基に、日々の生活では利用者での会話から知ってカンファレンスを行いケアに繋げている。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>出来ることに視点をおき、出来ないことは本人を傷つけずにお手伝いをしながら、安全に生活できるようにチームでケアをしている。</p>	<p>開設より利用者入所時は、全員センター方式D-3、4シートを活用しその人の生活リズムを職員全体で把握している。</p>
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人、ご家族や他職種協働でモニタリング、カンファレンスを行い本人の思いや気づきを介護計画に盛り込んでいる。センター方式活用してICFの視点で立案している。時にはご本人にもカンファレンスに参加して頂きより良く暮らすためにはどうしたら良いか話し合っている。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間終了前に本人、ご家族の思い職員が情報収集して見直しができている。御家族の要望や問題があった時や状態が変わった時は、期間が終了する前でも、カンファレンスをしていつでもチーム全員で見直しを行ない計画作成している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録がファイルにあり、身体状況や、毎日の様子、本人からの言葉等を記録に残し見直しに生かしている。職員の気づきや利用者の状態変化は個別のケア記録に記載し、情報を共有している。個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護ステーションと医療連携体制をとっており、24時間医療支援体制がある。ご家族の要望に応じて、職員が受診付き添い送迎を柔軟な対応で行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して暮らせるよう、運営推進会議に民生委員に参加して頂き意見交換する機会を設けている。手芸、読み聞かせボランティア、定期的に来られ協力体制が整っている。	○	運営推進会議へ、様々な地域の方が参加でき協力体制が充実するように検討していく。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問美容サービス、自治会の健康教室に参加している。		開設1年経過の中で、地域の社会資源を把握して活用していく。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には参加して頂いていない現状である。	○	開設1年経過の中で、地域包括支援センター職員にも運営推進会議に参加して頂き、情報交換や協力関係を深めていく。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	開設して1年が経過し、専門医の定期的受診を家族と相談しながら検討しすすめていく。
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		利用者の退院前に医師、訪問看護ステーション看護師、グループホーム看護師、本人、家族とカンファレンスを行い、退院後、本人が安心して生活できるよう医療での方針を決めていく。
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	今後、意思確認書に基づいて、終末に関する対応指針を、医師・家族・看護師他職種協働で話し合っていく。家族会で医師・看護師に講演をして頂くことも検討していく。
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>契約時に個人情報保護法方針同意書を頂き、説明している。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<p>センター方式C1-2、Bシートを活用しカンファレンスで共有しながら自分で決める場面を設定している。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		<p>利用者が行きたい時に出かけたりとその時々思いをかなえられるよう配慮している。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>御家族の方と一緒に美容院へ行かれたり、外出時お化粧をしたりおしゃれが楽しめるよう支援している。朝の着替え、入浴等着るものを基本的に本人に決めていただいている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		センター方式を活用、カンファレンスにて本人に合わせて情報を検討共有しけな繋げている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の症状を把握し、ご家族の協力を得て少額を手元に持っている利用者もいる。外出や買い物の際は、出来る方には自分でお金を手渡せる工夫をしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の気候や気持ちに合わせて、本人の希望時散歩や買い物、庭の手入れやドライブ等に出かけている。一人ひとりの習慣や楽しみに合わせて出かけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	自宅への栗拾い、七夕祭り、近所の神社やお祭り、家族と温泉旅行に行ったりと、本人の行きたい所をあらかじめ計画を立て実施している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添って、電話をかけたり受けたりしている。プライバシーに配慮して自室にてかけて頂いている。手紙のやり取りも行っている。近くにポストがないため、車で職員と出しに行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員や他利用者に気兼ねしないよう、談話スペースや自室にてゆっくり過ごして頂いている。いつでも気軽に来やすいよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスクマネジメント委員会を中心に全体でリスク管理している。勉強会を行ったり、ビデオを観て学習会をし、外部研修にも参加。職員の共有意識を図っている。		採用・異動職員にはオリエンテーション時に伝達し習得している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		<p>常に利用者の視点に立って話し合いを行っており、家族会等でも話し合っている。</p>
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		<p>利用者の状況を把握し、一緒に使えるもの、厳重に保管するもの等に分類し管理している。</p>
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		<p>マニュアルに基づいて緊急時の対応を職員間で確認し緊急時に備えている。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		<p>避難訓練時は、グループホームから近い消火栓や消火器具箱の確認を、消防署、消防団、全職員とで確認している。グループホームで火災についての勉強会も行ない徹底している。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	役割活動や外出等により、さまざまなリスクが生活の中で高まってくるものの、力の発揮や抑圧感の無い暮らしが利用者の表情を明るくし、行動の障害を少なくしている等、ご家族に見て頂いたり説明をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調や表情の変化を見逃さず、早期発見に取り組んでいる。状態の変化があった時は、即バイタル測定記録をつけている。気づいた時は、看護師、管理者に報告、職員間で共有し対応している。状況により医療受診に繋げている。		
74 服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルが作成されていて、職員が内容を把握できるようになっている。服用時には、本人に手渡し服用できたか確認している。		服薬ファイルは変更時、看護師により作成している。訪問看護ステーションにも渡し随時情報の共有をはかっている。
75 便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	管理栄養士、看護師の栄養指導により、毎日の食材の工夫（繊維質摂取量を多く取り入れる等）、日頃の運動も取り入れ、自然排便できるように取り組んでいる。		管理栄養士、看護師に献立を確認し指導して頂いている。
76 口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけ、一人ひとりの力の応じて見守り介助を行っている。	○	歯科衛生士による指導、学習会を検討していく。
77 栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を毎日チェック表に記録し職員間で情報共有している。2ヶ月に1回管理栄養士の指導でアドバイスを受けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所で起こりうる感染症について、詳細にマニュアルを作成し学習会を通して予防対策に努めている。利用者(同意を頂いている)、職員全員が予防接種を受けている。全職員は検便を行っており管理徹底している。		市役所、保健所の情報を閲覧できるようにして、職員全体が読んで理解できるようにしている。
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、フキン、台拭き等、毎日漂白し清潔に心がけている。冷蔵庫の食材点検、掃除も行っている。チェック表をつけて管理されている。食材の買いだめをしないよう、買い物日を決めて在庫が少ないように徹底している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には明るく花を置いて親しみやすい雰囲気を作っている。椅子を置いて誰もが座れるようなスペースを作っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭の雰囲気(料理を作っている音や匂い、季節の食材、季節の花等)や昔懐かしい歌謡曲、童謡をながしたり、生活から五感や季節感を取り入れるように配慮している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、談話スペースには、ソファや椅子、クッションやテーブルがあり、ゆっくりとお茶を飲みながら外を眺めたり、絵画を見たり、他者と話し合えたり一人になれたり思い思いに過ごせるようになっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		<p>入所の時、何馴染みの家具や小物を持ってきていただくよう家族に話ししている。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		<p>OMソーラー（空調機）等を活用、利用者が心地よい空間で過ごせるよう職員が使用方法を把握している。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		<p>夜間トイレがわかるようLEDライトを設置し、明かりで場所が分かり「便所」の文字を照らし理解して頂くよう工夫している。</p>
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域の中で開かれたグループホームとして、自治会行事の参加や、ボランティア(手芸、読み聞かせ、お茶、フラダンス等)の方が大勢来られ地域に支えられているグループホームであります。家族も、1.2週間に1回ほどに面会があり、家族との繋がりを大切に利用者安心して生活できるようチームで支えています。